

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B1903		事務事業名			こまき令和夏まつり開催事業			事業期間		令和元年度		～	令和8年度以降					
実施計画事業																				
実施計画事業以外の事業		○		担当部			地域活性化営業部			担当課・担当係		シティプロモーション課		にぎわい創出係						
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編		基本 施策	19	展開 方向	3	事業・予算区分	一般事業		款	7	項	1	目	4	大	2	中	2
	根拠法令 ・個別計画								対象 (何・誰を対象に)		市民									
	目的 (何のために)		本市の伝統と歴史のあるまつりを継承しながら、若い世代がより一層楽しむことが出来る新たな形を取り入れ、世代を超えた交流と絆が生まれるまつりとするを目的とする。						内容 (どのような方法で)		小牧駅・ラピオ周辺道路では、キッチンカー・露店・物販の出店、ラピオ南側道路では太鼓やダンス等のパフォーマンス、ラピオ4・5階では子ども向けのイベントを実施している。									

(2)事業費

事業費	項目	単位等	R2	R3	R4	R5	R6
			直接経費	決算額	千円	-	-
	財源						
	一般財源						
	国・県支出金						
	その他						
	計(A)		0	0	10,597	24,210	
	対前年比	%	-	-	-	228.46%	
	予算額	千円	30,000	0	30,000	30,000	27,931
人件費	正規職員	人			1	1	
	正規職員(平均賃金)	千円	0	0	7,486	7,486	
	その他職員	人			0.2	0.2	
	その他職員(時給×時間)	千円			334	334	
	計(B)	千円	0	0	7,820	7,820	
	事業費合計(C=A+B)	千円	0	0	18,417	32,030	

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	19	指標名	単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1	こまき令和夏まつりに来場した10歳代・20歳代の割合	%	↗	37.9	17		
展開方向	3	2								
		3								

指標	指標ほか		単位	R2	R3	R4	R5	R6	
	成果指標	こまき令和夏まつりに来場した人数	人	目標	—	—	20,000	50,000	60,000
		こまき令和夏まつりに来場した10歳代・20歳代の人数	人	実績	—	—	18,000	50,000	
	活動指標	イベントの周知回数	回	目標	—	—	8,000	20,000	25,000
				実績	—	—	8,000	8,500	
				目標	—	—	5	8	12
				実績	—	—	5	10	
	単 事業 あたり 費	受益者数(a)		人	—	—	18,000	50,000	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円			1,023	640	

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持(改善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの			
	事業の達成状況と課題	<p>本事業は、令和元年度から開始した事業であるが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、令和2・3年度は中止、令和4年度は規模を縮小し、開催することとなり、令和5年度に事業開始以来のフルスペックでの開催となった。</p> <p>令和5年度の来場者アンケートから、「今年の令和夏まつりの満足度は？」という問いに対し、全体の約7割の方が「とても良かった」、「良かった」と回答しているほか、「来年以降もこのまつりに来たいと思いますか？」という問いに対し、全体の約9割の方が「ぜったい来たい」「来たい」と回答いただいております。来場いただいた方々からは、事業を高く評価いただくことが出来ている。</p> <p>しかしながら、アンケートの回収場所が、ラピオ内で実施した「子ども縁日」に偏ったことから、本事業のターゲット層としている10代、20代からの回答はほとんどなく、小さな子どもの保護者である30代、40代からの回答となってしまう、事業全体の来場者の属性を適切に把握することができなかつた。</p>	今後の実施内容・今後の改善内容	<p>本事業は、令和5年度のアンケート調査から、回答者に偏りはあるものの、非常に高い評価をいただいていることや、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、フルスペックでの開催が、2回しか行えていないことなどから、事業自体の大きな見直しをする必要性は低いと考えている。</p> <p>しかしながら、事業を評価するためのアンケート調査の回収場所に偏りがあったため、アンケート回収場所を、様々な場所を実施するなどして、様々な年齢層からのニーズの把握に努めていきたい。</p>		
	改善の有無	有	千円	節	細節	細々節
これまでの改善内容	<p>令和4年度は、道路の両側にキッチンカー等が出店していたことで、歩行スペースが狭くなり、人流の滞留が発生していたことから、令和5年度は、来場者の安全確保の観点からも、出店を道路の片側のみとした。</p>	事務事業評価額				

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析		評価項目	評価結果	評価結果を判断した理由
妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	本事業は、幅広い世代が楽しめる総踊りと歴史ある秋葉山車が共演するまつりとして、秋葉宵まつりと同日開催とされていることや、小牧駅周辺を道路規制し実施していることから、民間事業者だけで実施することは難しく、また、アンケート結果からも、来場者から高い評価を受けていることもあり、公費の投入は妥当である。	
有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	多くの住民に影響がある	令和5年度は、来場者が約5万人であり、多くの市民に影響がある。	
効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	事業費の削減は、事業内容の劣化や、安全対策の低下につながる可能性が高いことから、総事業費は現状のままで良いと考える。	
	外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	既に事業を外部委託しているほか、類似事業もないため、現状のままで良い。	
公平性	受益者負担は適正か	適正である	全ての市民を対象とした事業であり、市民が来場しやすい交通の便が良い中心市街地で開催していることや、子ども縁日では参加費を徴収し受益者負担で実施していることなどから、適正である。	